

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071200549		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス		
所在地	福岡県福岡市西区千里中原49-1 (電話) 092-805-5658		
自己評価作成日	平成24年6月5日	評価結果確定日	平成24年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ほんわかハウスの主人は入居者お一人お一人であり、入居者の意思及び人格が尊重されお一人お一人のペースや希望に添って自由にありのままに暮らして頂いています。
- ・地域や家族との結びつきを重視し、地域に開かれたホームです。
- ・季節ごとに行事を計画し、季節感を味わって頂く事や日々の暮らしに自信と喜びをを持って暮らすことが出来るよう支援しています。
- ・入居者の能力が最大限に生かされ、その方にあった生活を送っていただくと共に生活の中に役割を持って頂きながら暮らして頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成24年6月25日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

- ①精神科である母体のクリニックが13年前に認知症高齢者のための住まいとして、運営している老人保健施設に併設して建てられた。福岡市郊外の田や林に囲まれた場所に位置し、静かな環境の中でゆったりと生活できる。また、車で10分くらいの範囲に大型ショッピングセンターやスーパーがあり、買い物にも便利なお店である。
- ②家族に毎月、手紙を送り、利用者との関係が維持できるように努めている。毎日、短時間ではあるが防災訓練を実施し、非常災害にすぐに対応できる態勢をとっている。
- ③事業所の理念「主人は入居者お一人お一人」とあるように、利用者の表情や言葉に耳を傾け、本人の意向を大切にケアに努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとしての理念を作成しており、毎月のユニットミーティングで、理念を唱和し、スタッフ全員で共有している。理念に沿ったケアが実践できているか確認している。	グループホーム事業所独自の理念があり地域密着型の視点も盛り込まれている。理念は職員間で十分共有化が図られており、月1回のユニットミーティング時に唱和し確認を行っている。理念の実践は利用者が主人公の自立支援を日々行なっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議や夏祭り・節句祭りなどに地域の方をお招きし、入居者・職員との間で交流を図っている。また、地域のお祭りに参加したり、近くの高校・保育園より行事の際お招きを頂き、訪問させて頂いている。日用品や食品の買い物に近隣のスーパーを利用している。	地域行事の夏祭りに利用者と共に参加し、法人合同の夏祭りにはご近所にチケットを配り参加を頂いている。節句祭りには保育園児の訪問もあり、年末の餅つきには隣接する高校生のボランティア参加もある。果樹園のスモモの収穫時は近所にお裾分けをしたり、ゆず・筍等の差し入れを貰ったり等の交流がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を活用し、介護又は認知症についての情報を発信したり、年1回であるが、地域の老人会が行っている勉強会に参加させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ2ヶ月に1回の頻度で開催している。議題として現状報告や行事予定、ケアの実践などを行っている。	運営推進会議は定期的に行われ、利用者の状況・サービスの実際・評価への取り組み等を報告して、委員からの意見を活かしてサービス向上に努めている。また、以前は遠方の有名な神社に初詣に行っていたが、会議中の話から地域の神社に行くようになり、地域との繋がりを深めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議へ参加していただき、助言をもらっている。わからないことがあるときは、市の担当者から指示を頂いてる。	家族からの質問・要望等で、事業所だけでは判断・解決できない事は、市の窓口に行ったり、電話で相談して対応しており、サービスの向上のために連携・協力を努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行っている。その中で「身体拘束をしないことの意義」について周知徹底を図っている。具体的には、ほんわかハウスの定める「身体拘束廃止委員会」にて毎月話し合いを行っている。	定期的な勉強会、身体拘束廃止委員会等で確認しており、身体拘束の弊害は管理者・職員共十分理解している。マニュアルがあり、外部研修に参加したときは伝達研修も実施し共有化が図られている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を行っている。日々のケアの中でこういった事が虐待につながるのか等も話し合っている。また入居者に原因不明の内出血等を発見した時など、記録に残し、ミーティング内のリスクマネジメント会議にあげている。年１回程度、虐待防止についての勉強会を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を開催したり、外部研修に参加している。また制度の利用が必要な方や情報を知りたい方へはその都度支援している。	権利擁護に関する制度等は、定期的な勉強会・外部研修への参加と伝達研修で理解し、職員間での共有化は図られている。その必要性が発生したときは家族等と話し合い、活用できるよう支援体制がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、利用者、ご家族の不安が無くなるまでお話を伺った後に、契約についての説明を行い理解を頂いている。改定等の際にも説明会を開いて、ご理解、納得を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、不満や意見また要望などを伺える機会を設けている。また日常の来訪時にも職員から一声かける配慮を行っている。法人内には苦情相談窓口を設けている。	利用者の要望・意見等に、職員は日常の支援の中で耳を傾ける努力をしており、記録に残している。時間の調整を図り、要望・意見等の実現のためにドライブ・買い物等の対応をしている。家族の来訪時には利用者の近況を報告し、家族からの希望等はできる限り利用者の処遇に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に２回職員の考えを管理者に直接伝える機会を設けている。また、毎月のミーティング時や、個人に時間を設けられる時は意見を聞き反映できるよう努めている。	職員は年２回、自己評価・希望等を述べる機会があり、人事考課として活用されている。管理者は毎月のミーティング・日々の業務の中で職員の要望等に耳を傾け、現状に合った勤務体制の変更等を行なっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、昇給も含め定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関して現場からの意見があった場合には、現場の状況に応じて環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては人物重視としており性別年齢等での判断はしていない。 人採用後の配置については、所属先の状態を見ながら適正な部署への配置を検討している。	職員の募集・採用に関して性別や年齢等で採用対象から排除されるようなことはない。人物重視で、それぞれの能力が十分発揮されるように配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発週間に合わせて講演会や研修に参加している。また人権啓発に関する資料や、人尊協たよりなどの広報誌などの内容に応じて回覧している。研修に参加した職員へは、報告発表の機会を設けている。	人権週間に合わせて講演会や研修会へ参加し、伝達研修を行うことにより職員間で人権意識の確認と共有化に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に関しては、現状に則した形で年間計画を立て、職員一人ひとりにあった研修を実施している。また認知症実践者研修やリーダー研修、その他グループホーム協議会の研修などにも経験や能力に応じた形で研修参加が出来るよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会の活動を通じ、近隣の同業者と持ち回りで勉強会を開催したり、情報交換・交流会を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のご本人、ご家族との面談やホームの見学を行っている。又、入居されてからは会話や言動の中から希望やご本人の気持ちをくみとることに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご本人の自宅に訪問し不安や要望などを聞いている。また来訪時に細かい部分をお聞きし、家族の思いも出来るだけ受け入れるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入所前に面談をおこない要望等を伺っている。その情報を基にスタッフ間で意見を出し 合い対応に努めている。 ほんわかハウス利用だけでなくニーズを把握 したうえで適切なサービスの紹介をおこなっ ている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	供に掃除や料理をしたりし役割や生きがいを 持てる様に配慮し、お互いに信頼しあえる関 係づくりを心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	ご意見、ご意向に添ったケアの手助けがおこ なえるようにしている。又、ご家族の協力が 重要であることをご理解頂き共に支えあえる 関係を深めている。		
22	11	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が行えない場合には代わって連絡を 取っている。又、写真を用いて手紙を出したり、催し物の案内を行っている。	利用者の馴染みの人や場所は、入所時のアセ スメント・家族からの情報・利用者自身の日 頃の言動から把握し、支援している。ドライ ブでの外出の機会を利用して利用者が暮らして いた所に立ち寄ることもある。テレビで馴染 み場所等が紹介されたりする場合は話題の 中にとり入れ、利用者の思い出話に活かして いる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが快適な環境で過ごせるよう場の提供 をしたりスタッフが橋渡しできるよう対応し ている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	手紙のやり取りや来訪がある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中から汲取ったり伺いながら反映しミーティング等で協議し常に確認している。	「入居者一人ひとりが主人」という理念があるように、意思疎通が困難な利用者でも、日々の生活の中で表情や態度を見て、思いをくみ取るように努めている。併せて、入居前後に家族から情報を得て、利用者の意向に沿ったケアを行うように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を得ている。又、会話からも情報を得てデータベース化し把握、共有に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活記録を記入しスタッフ間で把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にご本人、ご家族の意向を聞きユニットミーティング時にスタッフ間で意見をまとめながら作成に努めている。	担当制を設け、利用者の事をより深く理解するようにしている。支援計画の作成・変更・更新の時は、本人・家族・担当者・主治医の意見を参考に計画している。また、利用者の状態の変化に応じ、随時必要な見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残しスタッフ間で共有し、ミーティングや個別のカンファレンスで方向性を見つながら実践、評価、見直し等をおこなっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設や協力機関と連携を取りニーズに対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域交流会（運営推進会議）を活用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設されているクリニックへの定期受診、急な状態の変化の際も連携を図り必要に応じ他科受診をおこなっている。又、医療連携日報を用い密に連携している。	入居の際に主治医を選択できる旨、説明をしているが、併設するクリニックを利用される方が多い。専門外は他科受診をしている。併設するクリニックへの受診は2週間に1回の頻度で行っており、付添は主に職員が行っているが、病気の内容によっては家族が同行している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う変化が見られたら直ちに併設クリニックの看護師と連絡を取り相談、対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より担当医、看護師等と連絡を取り早期に退院できるよう努めている。又、入院時における必要な情報の提供、物品の準備をおこなっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族に説明し意向を確認している。 医師との面談等おこないユニット内で、できること、できないことを見極め医療機関とも連携しながら支援をおこなっている。	入居時や必要時に重度化や終末期のあり方について家族へ説明し、終末期ケアについては、併設するクリニックの医師や看護師も交えて、本人・家族の意向を尊重し、方向性を決めている。また、決定した内容をミーティング等において職員間で共有しており、介護と医療の連携が密にできている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修会や勉強会等に参加して実践できるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日時間を設定し避難誘導訓練を実施している。又、年に１～２回、地域の住民に訓練を見ていただきアドバイスを受けている。	法定訓練の他に、毎日５分程度の災害時対応訓練を行い、非常災害に備えている。地域住民へ訓練参加を呼びかけ、客観的に見てもらい、アドバイスをもらおうと同時に、事業所や入居されている利用者の状態を理解してもらうように努めている。非常用備品は併設施設に準備している。	事業所内に非常用備品を準備して欲しい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、又、周囲へ配慮した声の掛け方を心掛けている。	利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握し、本人が恥ずかしい思いや不快な思いをしないように、利用者に合った声掛けや誘導を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に尋ねたり選択肢を設けることで希望を実現できるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の立場、視点に立ちご本人のペースにあったケアの実践を心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容サービスの利用や、ご本人の必要に応じ衣料店等に出掛けている。普段では更衣時に好みの服を尋ねたり日中に汚れたりした際に気を配るよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行き何が食べたいか食材を選びながら楽しんで頂いたり、料理の準備段階の野菜切り等の提供をおこなっている。	食事の準備（配膳や汁物の注ぎ分け）や片づけを利用者と職員が一緒に行い、一緒に食事を摂っている。ユニットによって異なるが、朝食や夕食、曜日によっては昼食も自分たちでたてた献立を基に料理したものを食べている。それ以外は併設する老健の厨房で調理されたものを提供している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取できない方にはスタッフで注意し水分等補給し、摂取量が少ないときには補食の提供をおこなっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前に口腔ケアをおこなっている。又、歯科医の指導内容の把握に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い排泄パターンの把握に努めトイレへの誘導をおこなっている。	排泄チェック表を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄や汚れることが無いような支援を行っている。実際に排泄で自立したケースも多くある。また、利用者が失禁した場合も、他の利用者に気付かれないように、さりげなくトイレに誘導する等配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜ジュースや牛乳等の水分摂取、歩行等運動や腹部のマッサージの働き掛けを行い、薬だけに頼らないよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人が入浴したいと思われた際には最大限、提供している。入浴に強い拒否がある方に対しては、どのように提供すれば応じて頂けるかスタッフ間で検討、実施、評価、見直しをおこなっている。	毎日入浴できる体制は整っているが、要介助者は職員の手厚い午後に入浴することが多い。自立している利用者や見守りが必要な利用者は午後8時くらいまでは入浴できるような態勢をとっている。また、本人の希望を尊重し、入浴回数を設定している。入浴拒否がある方に対しては、職員交替や「外出前に入りましょう」等、本人の興味がある方向へ導いて対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望、タイミングや様子により、いつでも休めるよう寝具等を整備している。又、就寝時間等を設けず、寝たい時に眠れるよう配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを用い、薬名・作用等の把握に努めている。誤薬がないようご本人と薬の入った袋に記してある名前等確認しながら提供している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や誕生会等を設け、利用者の気分転換を図っている。又、家事等を日課的にさせ役割を持った生活を送ることができるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、喫茶等を希望や声掛けにより提供している。外食や遠方の外出はご家族にも相談し実現できるよう努めている。	可能な限り利用者の要望に応えられるように努めている。散歩や買い物、ドライブは日常的に行われている。利用者から外食の要望が出ることもあり、1～2ヶ月に1回、近くの飲食店へ出かけることがある。外出先の店では、要望する食事形態に対応してくれる等、周りの協力も得られている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は預かっていないが、立替えができる旨を伝え、ご本人の希望に応じれるよう努めている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望は少ないが、月に1度ご家族へのお手紙を送り、つながりを増やせるよう努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物等を見て楽しめるよう工夫している。	各所に木を使うなど、落ち着いて暮らせる環境になっている。また、廊下に絵や写真が掲げられており、利用者が鑑賞できるようになっている。各居室の入り口には大きめの木でできた表札があり、利用者の方が迷わなくて良いような配慮がされている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを配置したり、ゆっくりくつろげる場所を設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具や写真を飾り、安心して過ごせるよう工夫している。	ベッド以外の家具は利用者の持ち込みとなっている。家族の写真が貼られている等、部屋ごとに利用者の個性が感じられ、利用者が安心して生活できる配慮がなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子や机の高さを考えたり手摺や場所表示を配置し、自立した生活が送れるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとしての理念を作成しており、毎月のユニットミーティングで、理念を唱和し、スタッフ全員で共有している。理念に沿ったケアが実践できているか確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議や夏祭り・節句祭りなどに地域の方をお招きし、入居者・職員との間で交流を図っている。また、地域のお祭りに参加したり、近くの高校・保育園より行事の際お招きを頂き、訪問させて頂いている。日用品や食品の買い物に近隣のスーパーを利用している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を活用し、介護又は認知症についての情報を発信したり、年1回であるが、地域の老人会が行っている勉強会に参加させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ2ヶ月に1回の頻度で開催している。議題として現状報告や行事予定、ケアの実践などを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターより運営推進会議に参加していただき、助言をもらっている。わからない事があるときは、市の担当者より指示を頂いてる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行っている。居住地が2階であることも考慮し、スタッフが2人体制の時、スタッフが誰も入居者についていくことが出来ない状況の時は、ユニット入口を施錠させて頂いているが、利用者ご自身で開けられ、外に出て行かれることもある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を行っている。日々のケアの中でこういった事が虐待につながるのかなども話しあっている。また入居者に原因不明の内出血等を発見した時など、記録に残し、ミーティング内のリスクマネジメント会議にあげている。年1回程度、虐待防止についての勉強会を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を開催したり、外部研修に参加している。また制度の利用が必要な方や情報を知りたい方へはその都度支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、利用者、ご家族の不安が無くなるまでお話を伺った後に、契約についての説明を行い理解を頂いている。改定等の際にも説明会を開いて、ご理解、了承を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、不満や意見また要望などを伺える機会を設けている。また日常の来訪時にも職員から一声かける配慮を行っている。法人内には苦情相談窓口を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回職員の考えをと直接伝える機会を設けている。また、毎月のミーティング時や、個人に時間を設けられる時は意見を聞き反映できるよう努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、昇給も含め定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関して現場からの意見があった場合には、現場の状況に応じて環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては人物重視としており性別年齢等での判断はしていない。 採用後の配置については、所属先の状態を見ながら適正な部署への配置を検討している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発週間に合わせて講演会や研修に参加している。また人権啓発に関する資料や、人尊協たよりなどの広報誌など内容に応じて回覧している。研修に参加した職員へは、報告発表の機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に関しては、現状に即した形で年間計画を立て、職員一人一人にあった研修を実施している。また認知症実践者研修やリーダー研修、その他GH協議会の研修などにも経験や能力に応じた形で研修参加が出来るよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者GH協議会の活動を通じ、近隣の同業者と持ち回りで勉強会を開催したり、情報交換・交流会を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人の自宅等に訪問し、ご本人やご家族との話を行い、困っていることや要望などを聞いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人の自宅に訪問し、不安や要望などを聞いている。また来訪時に細かい部分をお聞きし、ご家族の思いも出来るだけ受け入れるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	ご本人・ご家族・管理者などと話し、ご本人 が今必要とされている事を検討し、必要に応 じた支援をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物(干す・たたむ)などをお 願いし、できない部分は一緒に行っている。 スタッフが利用者からアドバイスや意見をい ただけのような関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	毎月のお便りや来訪されたときにご本人の状 況をお伝えしたり、行事を案内し一緒に参加 していただいている。ご本人とご家族とで外 出される。G H内での誕生会に家族が参加さ れることもある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないう、支援に努めている	ドライブ等で以前居住されていた所を通っ たりしている。馴染みの場所などがTVに出て いると本人に声をかけたり、日常の会話の中 に取り入れている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が部屋へ迎えに行ったり、一緒に 散歩・外出・会話等を通してお互い支えあ えるような機会を作っている。ご自分では上手 く関われない人などにはスタッフが一緒に なって関われるようにしている。歌やゲーム などスタッフも入り、皆さんで楽しめる機 会を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退去されたご家族から手紙などを頂くことは あるが、こちらから連絡をとったりはしてい ない。入院され再入居の予定がある場合居室 の確保をしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「その人らしさ」を大切にし、自己決定がしやすい状況を考えている。少しでも本人本位に近づけるよう、毎月のミーティング等で繰り返し協議している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や、ご家族が来訪された時等に情報を拾い、生活歴やこれまでの暮らし方を記録に残し、スタッフ全員が把握できるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録・申し送り等で個人の情報を把握し、その日の行動・過ごし方を見て、その時にあったケアができるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月１回ケアカンファレンスを行い、現状に伴ったケアの方法を検討し、ご本人の思いやご家族との相談も含めた介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・変化を生活記録とし、個人で記録している。毎日のケアチェックも行っている。就業前に生活記録を読み、最新の状態を把握し、実践できるように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合い、併設の施設や協力機関などと、連携をとり支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行っている。運営推進会議などを活用していく。町内会・高校生・保育園児などを招いて、夏祭り・年末の餅つき等季節ごとの行事に参加していただいている。又、地域主催の祭りなどにも参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、ご家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。月2回の定期診察していただいている。また、急性の疾患の時は専門医を紹介してもらい、その都度受診している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と医療連携日報での情報のやり取りや巡回時に相談している。また、体調の変化や心身の変化に気をつけ、必要に応じて報告・相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、時々面会に行き、ご本人の表情や様子を知り、病院のスタッフと情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期における意向を確認し、状態の変化ごとに再確認をしている。また、状態が変化したときなど節目ごとにご家族・Ns・Dr、職員と方針を確認、共有している。またはご家族・医師とで面談を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、緊急時の対応についての勉強会を行っている。また、隔年ごとに消防署での救命救急の講習を全職員が受講している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、小規模訓練として5分程度、避難訓練を行っている。年に2回大規模訓練を行い、その内1回は消防署に立ち会ってもらっている。地域運営推進会議も兼ねて、地域の方にも参加いただき、助言を頂いている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさ」を理解し、自尊心を傷つけないような言葉かけ、言葉遣いに注意しながらケアを行っている。記録は、主な生活空間でないと行い、保管している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解できる言葉や単語を用いて、働きかけている。選択肢を設けるなどして、自己決定できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本意の視点に立ち、個人のペースに合った生活・ケアを心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や身だしなみ用品はすぐ使いやすい場所に置いている。また起床時・外出されるときはスタッフ側から声掛けを行い、ご本人に選択していただけるよう声掛けしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳等一緒に行っている。作ること・台ふき・後片付けなど、それぞれの得意なことを活かしてもらえよう支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量が個人で把握できるよう記録している。摂取量が不足しがちな方は、栄養補助飲料を提供している。また、補色として、好まれる食品や飲料を常備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアの他に、歯科医往診にて指導を受けている。1人1人に合った声掛け・支援を行っている。 また、歯磨き・うがいの困難な方は、緑茶ゼリー等を食後に食べていただいている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄記録を作り、パターンを予測してケアを行っている。その方に合った、パットを使用し、できるだけ自立に向けた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけに頼らず、水分補給を促したり、食物繊維を多く含んだ食材を使用したり、散歩などの声掛けにて適度な運動へと繋げている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	できるだけご本人の希望を尊重した声掛けを行っている。要介助者がほとんどで、スタッフ層が厚い時間帯に入ってもらっている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	排泄と同様、個人での睡眠の記録をとり、出勤スタッフがリズムや状況を把握できるようにして、その時の状況に応じて対応できるようにしている。夜にスムーズに安眠できるよう、日中に家事や散歩・レクリエーションを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬を一覧表にまとめ、目的・用法・用量などを明記している。他、薬の変更・追加等を医療連携日報・生活記録にて確認・把握している。カルテ表紙裏に入居者情報として最新の服薬状況を添付し、緊急時などのサマリーとして活用している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、家事・散歩など、生活歴を活かし、活動できる場面を、担当職員を中心に計画し、提供している。その時に興味を示されるものなどをスタッフ間で共有し支援につなげている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、その時の状況に応じて、個人で出掛けたり、少人数で出掛けたり支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の清算・管理はスタッフで行っているが、精算時にスタッフがお金を渡し、支払いをしてもらったり、残金の確認等一緒に行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については要望があればかけていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・和室・玄関先など、季節の花を飾っている。カーテン・障子などで光を調節している。季節に応じて正月飾り・雛壇などを飾っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせる机やソファの配置をしている。ホールにもソファ・玄関先にベンチなどを配置し、状況に応じて和室へお誘いしたり、ひとりになれる空間作りを心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の設置や道具・写真を持参して頂いている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さ・家具の配置など、ご本人の状態・動線に合わせて安全に生活できるよう設置している。また、表示方法説明方法を一人ひとりに合わせて工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとしての理念を作成しており、毎月のユニットミーティングで、理念を唱和し、スタッフ全員で共有している。理念に沿ったケアが実践できているか確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議や夏祭り・節句祭りなどに地域の方をお招きし、入居者・職員との間で交流を図っている。また、地域のお祭りに参加したり、近くの高校・保育園より行事の際お招きを頂き、訪問させて頂いている。日用品や食品の買い物に近隣のスーパーを利用している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を活用し、介護又は認知症についての情報を発信したり、年1回であるが、地域の老人会が行っている勉強会に参加させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ2ヶ月に1回の頻度で開催している。議題として現状報告や行事予定、ケアの実践などを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターより運営推進会議に参加していただき、助言をもらっている。わからない事があるときは、市の担当者より指示を頂いてる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行っている。その中で「身体拘束をしないことの意義」について周知徹底を図っている。具体的には、ほんわかハウスの定める「身体拘束廃止委員会」にて毎月話し合いを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を行っている。日々のケアの中でこういった事が虐待につながるのかなども話しあっている。また入居者に原因不明の内出血等を発見した時など、記録に残し、ミーティング内のリスクマネジメント会議にあげている。年1回程度、虐待防止についての勉強会を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を開催したり、外部研修に参加している。また制度の利用が必要な方や情報を知りたい方へはその都度支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、利用者、ご家族の不安が無くなるまでお話を伺った後に、契約についての説明を行い理解を頂いている。改定等の際にも説明会を開いて、ご理解、了承を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、不満や意見また要望などを伺える機会を設けている。また日常の来訪時にも職員から一声かける配慮を行っている。法人内には苦情相談窓口を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回職員の考えを直接伝える機会を設けている。また、毎月のミーティング時や、個人に時間を設けられる時は意見を聞き反映できるよう努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、昇給も含め定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関して現場からの意見があった場合には、現場の状況に応じて環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては人物重視としており性別年齢等での判断はしていない。 採用後の配置については、所属先の状態を見ながら適正な部署への配置を検討している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発週間に合わせて講演会や研修に参加している。また人権啓発に関する資料や、人権協会の広報紙など内容に応じて閲覧している。研修に参加した職員へは、報告発表の機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に関しては、現状に即した形で年間計画を立て、職員一人一人にあった研修を実施している。また認知症実践者研修やリーダー研修、その他GH協議会の研修などにも経験や能力に応じた形で研修参加が出来るよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者GH協議会の活動を通じ、近隣の同業者と持ち回りで勉強会を開催したり、情報交換・交流会を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人の自宅等に訪問し、ご本人やご家族との話を行い、困っていることや要望などを聞いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの時間を設け家族の抱えている問題などをうかがえるようにしている。意向に添ってケアプランを作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	ご本人、ご家族のニーズを捉えるよう心掛け ている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	家事など一緒に取り組み生活の中にお互いの 意見を取り入れている。アドバイスしたりさ れたりの関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	来訪時には会話の時間を設け生活状況の報告 又分らないことなど家族に尋ねケアの参考に している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取りができるよう支援して いる。地域の祭りに出掛けている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士一緒に活動できる時間を設け一人 一人の性格、行動、認知力を把握し、必要な 時はスタッフが間に入るようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	手紙のやり取りがある。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自己決定がしやすいようそれぞれの状況把握に努めている。又ご本人の意思の伝え方を常に意識し、捉えられるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの情報を頂いている日々の暮らしの中で会話に出てくる情報に注目しケアに役立てている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで心身の状態を把握している。その日のご本人のペースを見極めるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族に意向を確かめた上でカンファレンスを行い。問題点や課題など話し合っている。意思の確認が困難な方からは、生活の中からご本人の意向をくみ取っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化など生活記録に残し申し送りを行っている。ケアプランチェック表を毎日つけている。ミーティングや気付いたときにカンファを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合いを儲け、各関係機関と連携して支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行っている。運営推進会議などを活用していく。町内会・高校生・保育園児などを招いて、夏祭り・年末の餅つき等季節ごとの行事に参加していただいている。又、地域主催の祭りなどにも参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医とご家族が話し合える機会を設けより良い医療を受けることが出来るようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と、医療連携日報での情報のやり取りや、巡回時に相談している。常に連絡が取れるようになっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より担当医、看護師など情報交換をおこない、早期退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期においての指針について説明を行っている。又状態変化に応じて医療を交えた今後の対応についての話し合いを行い本人、家族の意向を確認している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命の講習を受けている。急変時の対応など勉強会を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、小規模訓練として5分程度、避難訓練を行っている。年に2回大規模訓練を行い、その内1回は消防署に立ち会ってもらっている。地域運営推進会議も兼ねて、地域の方にも参加いただき、助言を頂いている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような言葉かけや、行動に注意しながらケアに当たっている。記録類は生活空間でない所におき保管している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解出来る言葉や単語を用いて働きかけ、自己決定できるよう支援している。表情などで見分けることもある。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合ったケアを心掛けている。希望に添えない時は、他の提案をしたり、話し合いを行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみが上手くできるよう、道具の準備や声掛けなどを行い、自分のペースでできるよう支援している。外出時には化粧を楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、食べれないものは代替食を提供している。野菜切り、盛り付けなど食事準備は利用者と一緒に行い、得意なことを活かしながら関わって頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。嗜好品を用意したり、摂取しやすいようゼリーにしたり、またストローを利用して不足分を補えるよう工夫している		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けを行い各自居室にて歯磨きができるよう支援している。声掛けを行ったり、職員も一緒に歯磨きをする事もある。ご自分でできない方は介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	上手く言葉にできない方には声をかけたり、合図や排泄パターンを把握し誘導を行っている。立位の難しい方は2名でトイレ介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況により水分量の調節や、ヨーグルトなど乳製品を摂っていただいている。又散歩等適度な運動を心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	希望に合わせて入浴できるようにしている。拒否の多い方は、状態やタイミング相性の良い職員など観察検討し、気分良く入れるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに合わせた就寝、起床時間で支援している。リビングで過ごされている時など疲れが見られる時は、声をかけ居室でゆっくり休んでいただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人のお薬手帳に貼りファイルに納めている。薬の変更時には記録に残し、一覧表に処方目的など明記するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする事や好んで取り組まれることを役割として楽しんでもらっている。買物に行き嗜好品を購入したり、畑仕事に出掛けている。室内では花の手入れ家事手芸塗り絵歌など楽しんでもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物ドライブなど希望に添えるよう努めている。地域の夏祭りや花火大会、外食などに出掛けている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いができる方は、家族に了解を得てご自分で管理していただいている。買物に出掛けた時は、見守りの中支払いを済ませている。難しい方はホームで立替え、買物ができるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は公衆電話へ案内している。手紙の返事がかけよう声を掛けたり、便箋封筒を買いに出掛けたり、投函の支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下リビングには季節の花を飾り、暦を設置している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	別のテーブルを用意し他の方と少し距離を置いて過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくこれまで使用していた家具や物品を持ってきていただいている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ浴室には新たに手すりを設置し残存機能を生かせるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない